

基本情報

指標番号

3371

名称

周術期抗菌薬の予防的な投与日数の平均値：肺切除術（開胸）

分母

肺切除術（開胸）が行われた症例

分子

抗菌薬の予防的投与日数の総計（推奨薬剤かどうかは問わない）

指標群

周術期抗菌薬予防投与

意義

周術期抗菌薬の適切な使用（投与期間）をみるプロセス指標

年度

2010,2012,2014,2016,2018,2020,2022

必要データセット

DPC 様式 1,EF ファイル

指標の定義算出方法

分母の定義

1. 解析期間に入退院した症例を対象とする。
2. このうち、様式1の手術名1の点数表コードに以下のいずれかが含まれる症例。

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150129710	肺切除術（楔状部分切除）	K5111	○	○	○	○	○	○	○
150129810	肺切除術（区域切除）（1肺葉に満たないもの）	K5112	○	○	○	○	○	○	○
150130350	心筋損傷、心嚢、横隔膜の縫合、胃腹腔内還納等の手術	K5112	○	○	○				
150129910	肺切除術（肺葉切除）	K5113	○	○	○	○	○	○	○
150130010	肺切除術（複合切除）（1肺葉を超えるもの）	K5114	○	○	○	○	○	○	○
150130110	肺切除術（1側肺全摘）	K5115	○	○	○	○	○	○	○
150130650	肺切除と胸郭形成手術の併施した場合	K5115	○	○	○				
150317110	肺切除術（気管支形成を伴う肺切除）	K5116	○	○	○	○	○	○	○
150130810	肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又はこれに満たないもの）	K5141	○						

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150357810	肺悪性腫瘍手術（部分切除）	K5141		○	○	○	○	○	○
150386610	肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの））	K51410				○	○	○	○
150130910	肺悪性腫瘍手術（1側肺全摘又は1肺葉を超えるもの）	K5142	○						
150357910	肺悪性腫瘍手術（区域切除）	K5142		○	○	○	○	○	○
150317210	肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	K5143	○	○	○	○	○	○	○
150358010	肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）	K5143		○	○	○	○	○	○
150336410	肺悪性腫瘍手術（胸膜肺全摘）	K5144	○		○	○	○	○	○
150358110	肺悪性腫瘍手術（肺全摘）	K5144		○	○	○	○	○	○
150358210	肺悪性腫瘍手術（隣接臓器合併切除を伴う肺切除）	K5145		○	○	○	○	○	○
150358310	肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	K5146	○	○	○	○	○	○	○
150358410	肺悪性腫瘍手術（気管分岐部切除を伴う肺切除）	K5147		○	○	○	○	○	○
150358510	肺悪性腫瘍手術（気管分岐部再建を伴う肺切除）	K5148		○	○	○	○	○	○
150374510	肺悪性腫瘍手術（胸膜肺全摘）	K5149	○		○	○	○	○	○
150131610	肺縫縮術	K517	○	○	○	○	○	○	○
150287750	肺縫縮術（肺気腫に対する正中切開によるもの）（楔状部分切除）	K5171	○	○	○	○	○	○	○
150287850	肺縫縮術（肺気腫に対する正中切開によるもの）（区域切除（1肺葉に満たないもの））	K5171	○	○	○				
150287950	肺縫縮術（肺気腫に対する正中切開によるもの）（肺葉切除）	K5171	○	○	○				
150288050	肺縫縮術（肺気腫に対する正中切開によるもの）（複合切除（1肺葉を超えるもの））	K5171	○	○	○				
150288150	肺縫縮術（肺気腫に対する正中切開によるもの）（1側肺全摘）	K5171	○	○	○				

診療行為コード	基本漢字名称	コード	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
150331150	肺縫縮術（肺気腫に対する正中切開によるもの）（気管支形成を伴う肺切除）	K5171	○	○	○				

3. このうち、「手術点数コード」の実施日に下記抗菌薬（注射抗菌薬）が開始されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、以下の抗菌薬いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例。【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】

薬価基準コード7桁	分類名	投与経路	2010	2012	2014	2016	2018	2020	2022
611*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
612*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
613*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
614*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
615*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
616[1/9][4/5/6]**	主として抗酸菌に作用するもの	注射	○	○	○	○	○	○	○
619*[4/5/6]**	抗生物質製剤	注射	○	○	○	○	○	○	○
624*[4/5/6]**	化学療法剤	注射	○	○	○	○	○	○	○

4. このうち、手術実施日の前日（手術日-1）に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が投与されている（EFファイルの薬剤情報の点数コードに、いずれかの薬価基準コード7桁に対応するレセ電コードが含まれる）症例は分母から除外する。
5. 調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く。

分子の定義

- 手術実施日以降に抗菌薬（【抗菌薬（抗真菌・抗ウイルス・抗結核剤などは除く）表】参照）が使用された連続した日数の病院毎の集計。一度中断があった場合はそれ以降のデータは使用しない。
- 14日を超える症例は14日として集計する。

その他

薬剤一覧の出力

はい

リスク調整因子の条件

指標の算出方法

分子÷分母

指標の単位

日

結果提示時の並び順

昇順

測定上の限界・解釈上の注意

1. 本指標では様式1の手術1（主要手術）のみを対象とする。
2. 手術前日の抗菌薬投与症例を除外することで、治療的抗菌薬投与症例を除外する。
3. 抗菌薬の種類は問わないため、抗菌薬治療に連続して切り替えた場合、投与日数が長く集計される。ただし、これらの症例数は多くないと考えられ、また最大値として14日を設定することにより集計は対応する。また本指標に関連した抗菌薬を特定したほかの指標も併せて参考にされたい。

参考資料

参考値

参考資料

1. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会, 公益社団法人日本化学療法学会/一般社団法人日本外科感染症学会. 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン. 2016.